

- (1) **観光**とは「地域を豊かにするための手段」（地域にいたる人たちが幸せに生き活きと暮らしていくための手段）
- = ①「地域の経済を潤し」
②「町民にとって誇りと愛着の持てる活気にあふれた地域社会を築いていくことで」
③「次世代へより良い状態で地域を継承していく」ための手段
【郷土愛の醸成～地域の利益・利潤の最大化～より良い地域として将来世代へ引き継ぐ】
- (2) **ビジョン**とは 「目指す理想の姿・方向性」
- (3) **観光ビジョン**とは 観光分野における「目指す理想の姿・方向性」
- =「芽室町の観光は、誰のため・なんのために、どの方向に進めていくのか」を明確にしたものであり
=地域が一体となって、同じ方向を向いて、観光に取り組んでいくための考え方をまとめたもの

観光分野における「目指す理想の姿・方向性」を明確にして共有することで、同じ方向を見て、地域一体となって観光振興を進め、地域を豊かにしていくため

- (1) 策定の背景
・第5期芽室町総合計画、めむろシティープロモーション計画（ビジョンマップ）
・新型コロナウイルス感染症により観光のあり方の変化と見つめなおし（ニーズの変化などへの対応）
・人口減少社会における対応策
- (2) 上記のような背景の中、社会実化から生まれる課題解決と可能性の最大化のため観光分野の重要性が高まる
- (3) 昨年4月の主要事業ヒアリング（内部議論）で、観光ビジョンの必要性を確認し、6月から議論をスタート

芽室町はこんなまちです	基本理念	観光資源	基本方針	現状・課題・可能性	具体的に必要な行動(施策)	どんな時に「いい気分」になるか		実施時期			4つの柱	重点プロジェクト
						住む人	訪れる人	R6	R7	R8		
検討中	住む人も訪れる人も「いい気分」になる観光	シンボルとなるメイン観光資源	1.観光シンボルの設定とまちなか観光への波及により、地域内経済循環を拡大しよう 1)新嵐山スカイパーク展望台を観光シンボルに 2)シンボルを拠点に観光振興 3)まちなか観光への波及	1-1.新嵐山スカイパークが閉業中であるが、再生することで、観光の拠点として磨き上げられていく	1-1-1 新嵐山スカイパークの再生(新たな機能等の検討と担い手の確保)			○	○	○	1. おかね「経済・雇用」発展 ア 観光物産関連事業者の収入増 イ 上記に関連して所得増 ウ 町に雇用創出、地元職業選択肢増 エ 町に活気増、シャッター街が改善 オ チャレンジが実現できる町になる	1. 新嵐山スカイパークの再生とまちなか、芽室公園との連携
		2.受入体制の整備とおもてなし力の向上で、関係人口創出とリピーターを増やそう 1)観光推進体制の充実化 2)観光相談窓口の拠点明確化 3)芽室町の魅力を語れる町民の増 4)自信と誇り、シビックプライドの醸成 5)ターゲットを明確にした戦略 6)二次交通の充実化	2-1.住んでいる人が、より魅力を語れるようになり、かつ観光案内でできる人財の育成等により、おもてなし力が向上する	2-1-1 住んでいる人への魅力発信と観光ガイドの確保・育成			○	○	○			
		新嵐山スカイパーク展望台 (そこからの景観)		2-2.観光物産協会が組織改革と事業者との連携により、観光振興を推進する核となる	2-2-1 組織の更なる強化と関連事業者との連携した観光振興推進			○	○	○		
				2-3.ターゲットを明確にして、戦略や受入体制整備を行う必要がある	2-3-1 ターゲットを明確に設定して、それに合わせた受入体制整備			●	○	○		
				2-4.観光関連のデータ収集・把握・分析がなされていなく、データに基づく観光戦略が必要である	2-4-1 観光関連データの収集・把握・分析			●	○	○		
				2-5.交通アクセスの強みに加え、二次交通や交通情報を強化で、より快適な観光環境が整う	2-5 二次交通の強化のためサイクルツーリズムの活用や他の交通手段の検討と交通サインや情報収集の利便性強化			○	○	○		
				3.魅力的な食・体験・イベントの提供で、芽室ファンを増やし、域内消費を拡大しよう 1)食事シーンの磨き上げ 2)お土産購入シーンの磨き上げ 3)まちの魅力の体験シーンの磨き上げ 4)食の価値の理解を深めるシーンの磨き上げ	3-1.農業・自然景観・食の強みを更に活かすことで、新たな観光・物産関連商品化が進む	3-1-1 芽室らしいお土産等の開発、農業体験の観光商品化など			●	○	○	
		芽室公園		3-2.日高山脈の国立公園化が予定されており、新たな観光資源として磨き上げが必要である	3-2-1 関係組織・団体・企業と既存コンテンツ等を活用した観光商品化と販売			●	○	○		
				3-2-2 地元の人に日高山脈の魅力を知ってもらい、魅力が語れるようになる				○	○	○		
		まちなか		3-3.サイクルツーリズムが推進されており、他の分野と連携させることで稼げる体制整備が実現される	3-3-1-1 トカプチ400「地域ルート」の申請・認定と他分野との連携による稼げる体制整備構築			●	○	○		
3-4.野遊びをキーワードに町民とともに観光資源の再認識が進められ商品化と連携強化を進める	3-4-1 町民とともに検討した観光ツアーの商品化と全国の関連自治体等との送客を進める					○	○	○				
民間資源		3-5.町民等有志によるイベントが実施されており、官民連携により継続性を実現する	3-5-1 イベント目的に応じて、官民連携で役割分担を行い、理想のイベント実施体制の実現を図る			●	○	○				
		4.情報発信力の強化で、来訪意欲を高めよう 1)紙媒体での発信 2)デジタル媒体での発信 3)パブリシティでの発信	4-1.情報発信力が弱いため、各種媒体の特性を活かした魅力的な情報発信をすることで認知度・利便性を向上させる	4-1-1 観光パンフレット・ホームページ・SNS活用の魅力アップ及び機能強化			○	○	○			
					4-1-2 より各種メディアを効果的に活用した情報発信			○	○	○	3. ほこり「歴史・文化・食」の継承と磨き上げ ア 歴史や文化が守られ継承されていく イ 町の魅力の再発掘、磨き上げ、発信 ウ 文化交流や国際交流による教育効果 エ 食の価値が再認識され誇りと自信に	3. 十勝管内観光事業者等との連携強化による十勝広域観光
					4-1-3 観光案内機能の強化(サイン、まちの駅など)(インバウンド対応を含む)			○	○	○		
			5.芽室町の統一イメージ形成で、芽室町の魅力を効果的に伝えよう 1)芽室町の強みを打ち出し魅力の差別化 2)地域ブランディングによる統一イメージ形成	5-1.地域ブランディングが進行中であり、他地域との差別化を図り、町の特徴と魅力を発信していく	5-1-1 地域ブランディングを進め、町の魅力発信の強化とサプライチェーンの実現			○	○	○	4. ひと「人口」の増加(関係・交流・定住人口) ア 関係・交流人口の創出、定住人口の増 イ 税収増、行政サービスの充実・継続 ウ 交通インフラが整い、生活向上 エ 更に治安が良く、きれいな町に	4. 観光データの収集分析とターゲットを明確にした情報発信
			6.観光広域ネットワークの構築で、相乗効果を発揮して、来訪者の満足度を高めよう 1)十勝管内の観光業界とのネットワーク構築 2)信頼できる仲間づくり 3)道内・道外とのネットワーク構築 4)相乗効果の発揮	6-1.十勝全体の魅力は世界レベルであり、それぞれの自治体の特性を活かして連携することで相乗効果が発揮される	6-1-1 十勝管内の観光関連組織・事業者等と積極的な連携を進めていく			○	○	○		
				6-2.道外を含め連携している自治体があり、具体的な送客に結び付けることで相乗効果が発揮される	6-2-1 連携自治体等との連携を深め、送客や物産交流などを進めていく			○	○	○		
			7.国・北海道の方針と連動させ、理念を共有し、時代に即した観光振興を進めよう 1)国の法律等との連動 2)北海道の方針等との連動	7-1.国・北海道は、観光を大切な柱の一つとしており、それらの理念を共有し、連動させていくことが必要である	7-1-1 国・北海道と観光面での連携を深める			○	○	○		
			*詳細はビジョン内に記載									